

# 三重県環境学習情報センターは、こんな所です。

## やぐちゃんです

☆子どもたちと一緒に自然や地球に対するおもしろいや感性を育む活動を共有し、いつも身近な仲間になります。  
(子どもエコクラブ全般・県内交流会・Mieちびっこエコ王国大会・他)  
☆高校生・大学生・一般社会人まで、一人でも多くの方々に、危機的な地球環境問題を理解していただき、健全な地球の再構築のための活動や、環境に対する指導者を目指すべきネットワークをみなさんと共に広めていきます。  
(指導者養成講座 みえ環境学習セミナー・スキルアップ講座・他)

## マークです

総合学習のお手伝い、環境グループとのエコ交流会や海外の環境の話やワークショップはいかが？  
☆総合学習ではエコスクール「エコナン大作戦」、「宇宙と地球さん」、国際環境学習「〇〇学校ミニ国連教室」など展開中  
☆エコ交流会ではユニークなプロモーションのひとつ「エコマネーの普及運動」展開中  
☆いろいろな国々の活動経験を話しています。  
...その他おもしろい企画を計画中...たのしみにね!

## きむらです。

私たちの生活を見直すための環境講座(学校向け、一般向け)を担当しているほか、平成13年度、14年度の「インタープリター養成講座」と「インタープリターフォローアップ研修」、「プロジェクト・ワイルドエドゥケーター養成講習会」の開催を担当しました。  
また、環境学習情報センターの展示室はコンピューターやビデオ画面が並んでいて無機質なイメージが強いので、野外のもの(例えば、木の枝・葉・冬芽、セミのぬけがら、など)を時々持ちこんで、自然の不思議を発見できる展示を試みています。

## オクヤマです。

私達の「快適すぎる生活スタイルの無駄な部分」を見直し、生活のスリム化を目指し、生活に係わる「エネルギー」「買い物」「ごみ」など暮らしに直結した問題をみんなで考え、改善・実施できる環境講座を実践しています。現在講座は、色々な「省エネルギー講座」「環境に配慮した買い物講座」ごみ減量を考えた「ごみ講座」があります。講座は学校のみならず、企業の社員環境教育の一環としても活用頂いています。

## 川村です

センターでは県内全域の大気環境31ヶ所と大気及び水質発生源27ヶ所の測定局のデータを常時監視しています。私はこの監視システムがいつも正確で安定したデータを収集できるようにシステム全体の運用管理を主務としています。  
監視データはリアルタイムで、「三重の環境」ホームページを通じ県民の皆様へ配信させて頂いています。これからもより見やすく役に立つ監視データの提供ができるよう努力して行きます。

## 神野です

「三重の環境」のホームページの制作・更新が主な仕事です。行政のホームページは単調になりがちですが、なるべく皆さんに親しんでいただけるように、見やすく、楽しいホームページ作りを心がけています。  
また、子ども向けのコンテンツも作っていますので、「こんなことをホームページに載せて欲しい」と思うような内容があったら是非聞かせてください。

## 磯谷です

環境情報担当です。  
お仕事は、ホームページの作成・更新や環境監視システム業務のお手伝いをしています。  
たまに、おもしろい人やがんばっている人たちのインタビューや、環境関係の行事の取材に行ったり、パソコン教室を開いてホームページの作り方を教えたりもしています。  
興味があったら参加してみてね。

## ★三重県環境学習情報センターが資源エネルギー庁長官賞を受賞

三重県環境学習情報センターは、財団法人社会経済生産性本部 エネルギー環境教育情報センター主催の「第12回エネルギー広報施設・広報活動表彰」で最高の賞である「資源エネルギー庁長官賞」を受賞しました。この表彰は、青少年や地域社会を対象にエネルギーや環境問題をテーマとした活動を積極的に行っている施設・企業などが選ばれるものです。総合賞である「資源エネルギー庁長官賞」はこの表彰制度のグランプリにあたり、学校教育、地域社会への配慮、展示内容、企画・運営・管理等の総合的な観点から 特に優秀と認められた1施設のみが選ばれます。

☆ホームページ「三重の環境」が2年連続で「環境goo大賞2002」自治体の部で最高の「大賞」を受賞しました。「環境goo大賞2002」は、国内最大の環境情報検索サイトである「環境goo」が、環境保全に関する情報発信に関して、ホームページを活用した「環境コミュニケーション」を実施している企業、自治体、NGO、個人のホームページを審査・表彰するものです。

受賞にあたって、北川知事からは、「2年連続で環境goo大賞を受賞させていただき大変光栄です。今後も、県民のみなさんとの双方向の情報交流により、創造的・自発的な環境保全活動の連鎖につながる「情報共鳴」の状態を目指し、内容の充実を図っていきたく考えていますので、掲載情報、活用方法の提案などご意見、ご要望お寄せいただきますようお願いいたします。」とのコメントが発表されました。